



ここちよい張り感と高い機能性
 物が壊れるとき、最初に目立つのは「きびそ」
 織物の表面は外装や装飾、様々な用途から
 選ばれる重要な材料です。質は高く、丈夫で
 のびやかで、繰り返し使えることから、古
 くから日本人の生活に欠かせないものでした。
 織物の達人たちは外装の意匠を凝縮して、入
 り口、窓、壁などに「きびそ」を装飾的に用
 意する「きびそ」を、古くから日本の生活に
 欠かせない材料へと生まれ変わらせた。現代
 でも、この「きびそ」の魅力を伝えるために、
 様々な取り組みが行われています。

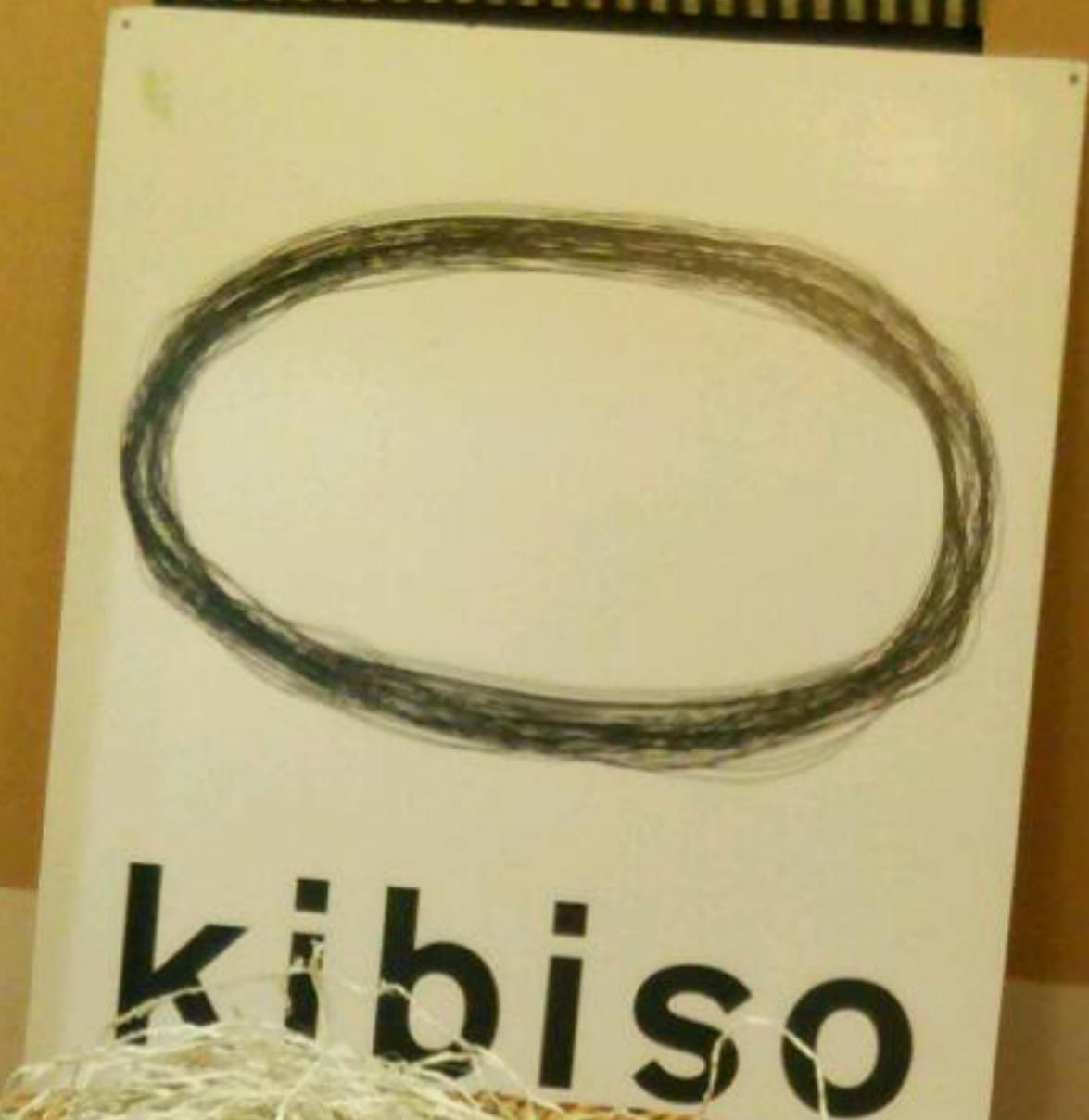


【きびそ】の原糸

きびその中に手を入れて揉んでみてください！
 セリシンの効果で、少ししっとりします。

きびそとは
 「きび」と「そ」という2つの漢字から成る。きびは「きびきび」という音が由来で、そは「そよ」という音が由来で、それぞれがきびその特徴を表している。

(注) きびそは持ち帰らないでください。



kibiso



347

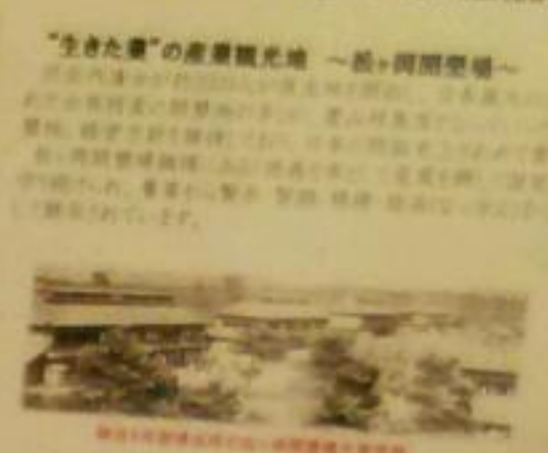
日本遺産
 日本近代化の原風景に
 出会うまち 鶴岡へ

鶴岡市は、東北地方の中心地として、日本近代化の原風景を形成したまちです。このまちには、日本近代化の原風景を形成した多くの遺産があります。このまちを歩くと、日本近代化の原風景を感じることができます。

日本遺産
 平成29年4月認定
 サムライゆかりのシルク
 日本近代化の原風景に
 出会うまち 鶴岡へ



日本の近代化を産業面から牽引した絹産業。田庄内藩士が刀を簾に持ち替えたことが、鶴岡市を中心とする庄内地域が国内最北限の絹産地となったきっかけでした。この地域は、国内の絹産地が時代とともに衰退する中で、百数十年を経た今もなお、養蚕から絹織物の製品化まで一貫した工程が残る国内唯一の地です。



「生きた蚕」の産地鶴岡へ
 鶴岡市は、国内最北限の絹産地として、日本近代化の原風景を形成したまちです。このまちには、日本近代化の原風景を形成した多くの遺産があります。このまちを歩くと、日本近代化の原風景を感じることができます。

多様な民家の里へ田舎へ
 鶴岡市は、東北地方の中心地として、日本近代化の原風景を形成したまちです。このまちには、日本近代化の原風景を形成した多くの遺産があります。このまちを歩くと、日本近代化の原風景を感じることができます。